

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 蛇腹 (じゃふく) に折られた紙がある。
② 氷雨 (しぐれ) が頬をかすめた。
③ 道路に「幅員 (ふくいん) 減少」の表示がある。
④ 会社名の後に御中 (ごちゅう) と書く。
⑤ みだりに殺生 (せっせい) をしてはいけない。
- (2) ① 寺院を建立 (こんりつ) する。
② 家に離れを普請 (ふせい) する。
③ 為替 (ためがえ) 証書を発行する。
④ 筋肉が弛緩 (しかん) する。
⑤ 委員長を更迭 (こうそう) する。
- (3) ① 彼女は生粋 (せいすい) のパリジェンヌだ。
② 家に納戸 (のうと) を設ける。
③ ついに兵糧 (へいりょう) が尽きてしまった。
④ がんは三大疾病 (しつびょう) の一つである。
⑤ 亀甲 (きっこう) 模様のカーテン。

問題2 次の下線部を漢字に直したもの(送り仮名を含む)が正しいものを一つずつ選べ。

- (1) ① 先例にカンガミテ (鑑みて) 意見を述べる。
② 領土問題にタン (胆) を発している。
③ 彼はチームのカナメ (金目) となる選手だ。
④ ゲン (顕) をかついで大安の日に行く。
⑤ カタワラ (傾ら) の椅子にもたれる。
- (2) ① これはユユシキ (油々しき) 事態だ。
② コウゴウシイ (好々しい) 光を放つ宝石。
③ 新入社員はウイウイシイ (愛々しい) 様子だった。
④ 盗人タケダケシイ (猛々しい) とはこのことだ。
⑤ ギョウギョウシク (業々しく) 飾り立てた部屋。
- (3) ① ソッケ (粗気) ない態度を示す。
② アンノン (安穩) とした生活を送る。
③ カタズ (固頭) をのんで見守る。
④ ヨセ (寄世) で落語を聞く。
⑤ ナゴリ (名凝) 惜しい気持ちになる。

問題3 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

- (1) キセイ品を買う。
- ① 問題がタキにわたる。
 - ② キネン碑を立てる。
 - ③ この景色にキシ感を覚える。
 - ④ キセキが起こる。
 - ⑤ 商売がキドウに乗る。
- (2) 教科書をカイテイする。
- ① 誤字をテイセイする。
 - ② 専制政治にテイコウする。
 - ③ 田舎にテイジュウする。
 - ④ 大ホウテイで審理を行う。
 - ⑤ 一時間テイド遅れる見込みだ。

問題4 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選べ。

- (1) 馬耳東風
- ① いろいろさまざまに変わることに。
 - ② 人の言うことに心をとめないこと。
 - ③ 周囲が敵や反対者ばかりであること。
 - ④ 人の言動につられて行動すること。
 - ⑤ 見かけだけ立派にして、実績が伴わないこと。
- (2) 針小棒大
- ① 人の好みや考えが各人各様であること。
 - ② 一度にたくさんの利益を得ること。
 - ③ 行く先に多くの困難が待ちかまえていること。
 - ④ 自分に関することを自分でほめること。
 - ⑤ 物事を大げさに言うこと。
- (3) 管鮑かんぼうの交わり
- ① 友人同士の親密な交際のこと。
 - ② 似た者同士は自然と寄り集まること。
 - ③ 仲違いした者が、再び元の仲にもどること。
 - ④ ちょっとした出来事もすべて宿世の因縁によるということ。
 - ⑤ 相手が好意を持てば、こちらもそれに応ずる用意があること。
- (4) 石に漱くすすぎ流れに枕す
- ① 本性をかくし、おとなしそうに見せかけること。
 - ② 用心の上にも用心すること。
 - ③ こじつけて言いのがれること。
 - ④ 思うように届かないこと。
 - ⑤ 何もせずに好結果を期待しても無理であること。

(5) 他山の石

- ① 役に立つ物を持ちながら利用しないこと。
- ② 自分の人格を磨くのに役立つ人のよくない言行やできごとのこと。
- ③ 意外な所から意外なものが現れること。
- ④ 密談などがもれやすいこと。
- ⑤ 自分より地位や実力が上で、自分の活動の邪魔になるもののこと。

問題5 次のうち「絶え間なく進歩し発展すること」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 一日千秋
- ② 旧態依然
- ③ 新陳代謝
- ④ 日進月歩
- ⑤ 大器晩成

問題6 次のうち「苦勞もせずに多くの利益を得ることのたとえ」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 二兎を追う者は一兎をも得ず
- ② 漁夫の利
- ③ 一石二鳥
- ④ 鳶とびが鷹たかを生む
- ⑤ 濡れ手で粟あわ

問題7 次のうち「意見の一致、合意」を意味する語句として正しいものを一つ選べ。

- ① コンセンサス
- ② リテラシー
- ③ イニシアチブ
- ④ コンプライアンス
- ⑤ ガバナンス

問題8 次のうち「弁解」と同じ意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 口論
- ② 弁護
- ③ 釈明
- ④ 解説
- ⑤ 論破

問題9 次のうち「曖昧」と反対の意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- ① 責任
- ② 慎重
- ③ 明瞭
- ④ 冷酷
- ⑤ 露骨

問題 10 次のうち下線部が慣用表現として正しいものを一つ選べ。

- ① あの発言はどうにも肝に据えかねる。
- ② 父はずっと苦虫を嚙みつぶしたような顔をしていた。
- ③ そんなことで弱気を吐いてどうするんだ。
- ④ 彼と口車を合わせてアリバイを主張した。
- ⑤ 口先三寸でごまかそうとしても無駄だ。

問題 11 次のうち敬語表現として正しいものを一つ選べ。

- ① 先生が「そうしなさい」と申し上げました。
- ② 田中様にお目にかかることができて光栄です。
- ③ 私の母が先生のお宅にいらっしゃいます。
- ④ このパンフレットを拝見されましたか。
- ⑤ 私もその会合に参加なさいます。

問題 12 次の記述に当てはまる人物として正しいものを一つ選べ。

この人物は、大正 14 年東京都生まれ。学習院中等科在学中から詩歌や散文を書き、16 歳で短編集「花ざかりの森」を手がけた。戦後、川端康成の推薦で「煙草」「岬にての物語」などを発表し文壇の足がかりとする。24 歳の時「仮面の告白」で高い評価を得て作家の地位を確立した。代表作に「潮騒」「金閣寺」「豊饒の海」などがある。

- ① 堀辰雄
- ② 井伏鱒二
- ③ 井上靖
- ④ 三島由紀夫
- ⑤ 永井荷風

問題 13 次の文章で始まる文学作品の作者として正しいものを一つ選べ。

隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃むところ頗る厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。いくばくもなく官を退いた後は、故山、號略に帰臥し、人と交を絶って、ひたすら詩作に耽った。下吏となって長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、詩家としての名を死後百年に遺そうとしたのである。

- ① 谷崎潤一郎
- ② 芥川龍之介
- ③ 二葉亭四迷
- ④ 森鷗外
- ⑤ 中島敦

第2問 次の文章を読んで、後の各問いに答えよ。

(「君」は画家になる夢を持っていたが、家の事情で漁師になっている。)

昼は真冬からは著しく延びてはいるけれども、もう夕暮の色はどんどん催して来た。それとともに肌身に寒さも加わって来た。落日に彩られて光を呼吸するように見えた雲も、煙のような白と淡藍との影日向を見せて、雲とともに大空の半分を領していた山も、見る見る寒い色に堅くあせて行った。そして靄ともいふべき薄い膜が君と自然との間を隔てはじめた。

君は思わず溜息をついた。いい解きがたい(ア)——それは若い人が恋人を思う時に、その恋が幸福であるにもかかわらず、胸の奥に感ぜられるような——が不思議に君を涙ぐましくした。君は鼻をすすりながら、ぱたんと音を立ててスケッチ帖を閉じて、鉛筆と一緒にそれを懐ろに納めた。凍てた手は懐ろの中の温味をなつかしく感じた。弁当は食う気がしないで、切株の上からそのまま取って腰にぶらさげた。半日立ち尽した脚は動かそうとすると電気をかけられたように痺れていた。ようようの事で君は雪の中から爪先きをぬいて一步一步本道の方へ帰って行った。遙か向うを見ると山から木材や薪炭を積み下ろして来た馬籠がちらほらと動いていて、馬の首につけられた鈴の音が冴えた響をたてて幽かに聞こえて来る。それは漂浪の人が遥かに故郷の空を望んだ時のようななつかしい感じを与える。その消え入るような、淋しい、冴えた音が殊になつかしい。不思議な誘惑の世界から突然現世に帰った人のように、(イ)君の心はまだ夢心地で、芸術の世界と現実の世界との淡々しい境界線を辿っているのだ。そして君は歩きつづける。(A)

いつの間にか君は町に帰って例の調剤所の小さな部屋で、友達のKと向き合っている。Kは君のスケッチ帖を昂奮した目つきで彼所此所見返えしている。

「寒かったろう」

とKがいう。君はまだ本統に自分に帰りきらないような顔付きで、

「うむ。……寒くはなかった。……その線の鈍ってるのは寒かったからではないんだ」

と答える。

「鈍ってはいはしない。君がすっかり何もかも忘れてしまって、駈けまわるように鉛筆をつかった様子がよく見えるよ。今日のはみんな非常に僕の気に入ったよ。君も少しは満足したろう」

「実際の山の形に較べて見給え。……僕は親父にも兄貴にもすまない」

と君は急いで言いわけする。

「なんで？」

Kは(ウ)スケッチ帖から眼を上げて君の顔をしげしげと見守る。

君の心の中には(エ)苦い灰汁のようなものが湧き出て来るのだ、漁にこそ出ないが、本統をいうと漁夫の家には一日として安閑としていい日とてはないのだ。今日も、君が一日を画に暮らしていた間に、君の家では家中で忙わしく働いていたのに違いないのだ。建網に損じのある無し、網をおろす場所の海底の模様、大釜を据えるべき位置、棧橋の改造、薪炭の買入れ、米塩の運搬、仲買人との契約、肥料会社との交渉……その外鯨漁の始まる前に漁場の持主がして置かなければならない事はあり余るほどあるのだ。(B)

君は自分が画に親しむ事を道楽だとは思っていない。いないどころか、君に取ってはそれは生活よりも更らに厳粛な仕事であるのだ。しかし自然と抱き合い、自然を画の上に活かすという事は、君の住む所では君一人だけが知っている喜びであり悲しみであるのだ。外の人たちは——君

の父上でも、^{きょうだい}兄妹でも、隣近所の人でも——ただ不思議な小供じみた戯れとよりそれを見ていないのだ。㉔

君は理屈では何ら恥ずべき事がないと思っている。しかし実際では決してそうは行かない。芸術の神聖を信じ、芸術が実生活の上に玉座を占むべきものであるのを疑わない君も、その事柄が君自身に関係して来ると、思わず知らず^{あしもと}足許がぐらついて来るのだ。

「俺れが^お芸術家であり得る自信さえ出来れば、俺れは一刻の^{ちゅうちよ}躊躇もなく実生活を踏みにじっても親しいものを犠牲にしても、歩み出す方向に歩み出すのだが……家の者どもの実生活の真剣さを見ると、俺れは自分の天才をそうやすやすと信ずる事ができなくなってしまうんだ。俺れのようなものを描いていながら彼らに芸術家顔をする事が恐ろしいばかりでなく、^{せんえつ}僭越な事に考えられる。俺れはこんな自分が恨めしい。そして恐ろしい。みんなはあれほど心から満足して今日今日を暮しているのに、俺れだけはまるで（オ）始終暗い心をしていなければならないのだ。どうすればこの苦しさこの淋しさから救われるのだろう」

平常のこの考えがKと向い合っても頭から離れないので、君は思わず「親父にも兄貴にもすまない」といってしまったのだ。㉕

「どうして？」といったKも、君もそのまま黙ってしまった。Kには、物をいわれないでも君の心はよく^{わか}解っていたし、君はまた君で、自分は奇麗に^{あきら}諦めながらどこまでも君を芸術の^{ほうせい}捧誓者たらしめたいと熱望する、^(カ) Kの淋しい、自己を滅した、温かい心の働きをしっかりと感じていたからだ。

君ら二人の眼は^{ゆううつ}悒鬱な熱に輝きながら、互に瞳を^{はばか}合わすのを憚るように、やや燃えかすれたストーブの火を眺め入る。

そうやって黙っている中に君はたまらないほど淋しくなってくる。自分を憐れむともKを憐れむとも知れない哀情がこみ上げて、Kの手を取り上げて撫でてみたい衝動を幾度も感じながら、^{めめ}女々しさを退けるようにむずがゆい手を腕の所で堅く組む。㉖

ふと煤けた天井から垂下った電球が光を放った。驚いて窓から見るともう往来は^{まっく}真暗らになっている。冬の日の^{うすづ}注2 春き隠れる早さを今さらに君はしみじみと思った。掃除の行き届かない電球は埃と手垢とで^{こみ}殊更ら暗らかった。それが部屋の中を^{てあか}なお悒鬱にして見せる。

（出典：有島武郎「生れ出づる悩み」集英社文庫）

（注）1 捧誓者：ささげると誓った者。 2 春く：夕日が山の端に入ろうとすること。

問題 14 次の文は本文の一部である。挿入場所として最も適当な場所を一つ選べ。

君の考え通りをその人たちの頭の中に^{たんのう}たんのうができるように打ちこむというのは思いも及ばぬ事だ。

① ㉑ ② ㉒ ③ ㉓ ④ ㉔ ⑤ ㉕

問題 15 （ア）に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

① 衝動 ② 暗愁 ③ 失望 ④ 感動 ⑤ 郷愁

問題 16 下線部 (イ)「君の心はまだ夢心地で、芸術の世界と現実の世界との淡々しい境界線を辿っている」とはどういうことか。最も適当なものを一つ選べ。

- ① 芸術の世界に恋い焦がれる一方で、漁師という現実の世界にも心が惹かれ、どちらも選択できないでいるということ。
- ② 芸術の世界に囚われるあまり漁師という現実の世界を忘れてしまい、行くあてもなくさまよっているということ。
- ③ 芸術の世界というあまりにも手の届かない厳しい世界に触れたことで、ようやく現実の世界にたどり着くことができたということ。
- ④ 画を描いたことで芸術の世界と現実の世界のどこに境界線があるのかを見失い、自暴自棄になっているということ。
- ⑤ 憧れる芸術の世界に触れていたため、まだ自分は漁師であるという現実の世界に完全に振り返っていないということ。

問題 17 (ウ)に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 満足そうに ② 億劫おっくうそうに ③ 不満そうに
- ④ 退屈そうに ⑤ 怪訝けげんそうに

問題 18 下線部 (エ)「苦い灰汁のようなもの」とあるが、この説明として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 自分も外の者と同じように漁師の仕事をしなければならなかったのに、静止を振り切って芸術に走ってしまったことに対する苦悩。
- ② 漁師の仕事に誇りを持たなければならないと思っている一方で、芸術をなかなか諦め切れないうことに対する焦燥感。
- ③ 自分が芸術の神聖を知っていることで、外の者が漁師の仕事に満足していることに対して心の隅で抱いている優越感。
- ④ 外の者が忙しく漁師の仕事を行っている一方で、自分は芸術に触れて一日を過ごしたということに対する罪悪感。
- ⑤ 芸術という自分が本来探究すべき道がある一方で、漁師の仕事をしているということに対する不満。

問題 19 (オ)に入る語句として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 陰謀でも企たくらんでいるように
- ② 友達のおモチャを妬む幼児のように
- ③ 夜空の星を欲しいと想うように
- ④ 親の仇かたきを恨むかのように
- ⑤ 宝石を愛めでているように

問題 20 下線部 (カ)「Kの淋しい、自己を滅した、温かい心の働き」とあるが、この説明として最も適当なものを一つ選べ。

- ① 「君」の苦悩をあたかも自分のことのように考え、悲嘆にくれるKの絶望感。
- ② 「君」を見守りつつも心の奥底にある「君」への嫉妬心に悩むKの苦しい気持ち。
- ③ 自分も「君」のような芸術の域まで達成したいと強く願うKの強い憧れの気持ち。
- ④ 自分が持つ芸術への憧れは脇に置き、「君」の苦悩を静かに見守るKの優しい気持ち。
- ⑤ 「君」を想うあまり自分を犠牲にして「君」のために尽くす、Kの献身的な気持ち。

問題 21 次のうち本文の内容に合致する記述として正しいものを一つ選べ。

- ① 「君」は漁師として働くことが耐え切れず、芸術家として歩むことを決意する。
- ② 「君」が描いた画は、「君」の複雑な心が反映された苦悩と淋しさにあふれる内容であった。
- ③ 「君」は芸術を理解しながらも、芸術家としての技量に絶対的な自信を持ってないでいる。
- ④ Kはどうしても「君」に芸術家としての道を諦めてほしくないと、励まし続けている。
- ⑤ 芸術と漁師との板挟みに「君」は苦悩しているが、一縷^{いちる}の望みがあることが示されている。